

令和 5 年 4 月 24 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01486

研究課題名（和文）冷戦後日本の外交と安全保障 小泉政権期まで

研究課題名（英文）Diplomacy and Security in Post-Cold War Japan: Up to the Koizumi Administration

研究代表者

服部 龍二（Hattori, Ryuji）

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80292712

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：Fighting Japan's Cold War (Routledge); Japan and the Origins of the Asia-Pacific Order (Springer); China-Japan Rapprochement and the US (Routledge); Japan at War and Peace (ANU Press); Eisaku Sato (Routledge); Understanding History in Asia(JPIC)  
『外交を記録し、公開する』（東大出版）、『増補版 大平正芳』（文藝春秋）、『高坂正堯』（中公新書）

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語で5冊の単著を刊行した。とりわけ、Japan at War and Peace: Shidehara Kijuro and the Making of Modern Diplomacy (Canberra: Australian National University Press, 2021)はオープンアクセスとしてある。ほかの著作についても、順次、オープンアクセスとする予定である。

研究成果の概要（英文）：Fighting Japan's Cold War (Routledge); Japan and the Origins of the Asia-Pacific Order (Springer); China-Japan Rapprochement and the United States (Routledge); Japan at War and Peace (ANU Press); Eisaku Sato (Routledge); Understanding History in Asia(JPIC)

研究分野：国際政治史

キーワード：国際政治史 日本政治外交史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は20数年来、近現代日本の外交と東アジアの国際政治について、主として外交史・国際政治史のアプローチから研究してきた。

その一部は、高原明生・服部龍二編『日中関係40年史(1972~2012) 政治巻』(北京:社会科学文献出版社、2014年)、服部龍二/ソスンウォン・ファンスヨン訳『中国と日本の握手 1972年国交正常化の真実』(ソウル:Geulnurim Publishing、2017年)、服部龍二/沈丁心・騰越訳『大平正芳的外交と理念』(北京:中央編譯出版社、2017年)として、外国でも翻訳、刊行されている(業績6、8参照)。現代日中関係史については、イギリスでの単著出版も準備している。

それとともに、佐藤栄作、大平正芳、中曽根康弘など、外交・安全保障を考察するうえで、欠かすことのできない首相の伝記的研究を進めた。これにより、新冷戦と呼ばれた1980年代半ばまでについては、最新の史料公開を含めて、研究が蓄積できつつある。また、外務省記録などの系統的分析に加えて、関係者へのインタビューを行い、人事一覧や組織変遷についてのデータベース構築を重ねてきた。

現在では、冷戦末期から今世紀初頭に研究の比重を移しつつある。政権でいうなら、竹下登内閣(1987-1989年)から小泉純一郎内閣(2001-2006年)であり、多くは自民党政権であるが、その間に細川護熙、羽田孜、村山富市という非自民党を首班とする内閣をはさんでいる。

## 2. 研究の目的

政治外交史研究が冷戦後に及ぶようになった今日、現代日本外交の特質として官邸主導が挙げられるようになった。また、防衛庁から防衛省への格上げに象徴されるように、対外政策の決定過程における防衛省の役割も重要となっている。

そこで本研究では、冷戦末期から今世紀初頭までの約20年間に3期に区分し、各期の特質と変容の構造的要因を論じたい。

第1期 冷戦末期 自民党単独政権: 竹下・宇野・海部・宮澤内閣

第2期 ポスト冷戦初期 非自民党連立内閣期: 細川・羽田内閣

第3期 中国台頭期 自民党連立内閣期: 村山・橋本・小淵・森・小泉内閣

あえて冷戦末期の竹下・宇野・海部・宮澤内閣から研究を始めるのは、冷戦後の政策過程や組織変革と比較する視点として必要だからである。

## 3. 研究の方法

本研究は、冷戦末期から今世紀初頭までの約20年間において、日本の外交・安全保障政策の決定過程がいかに変容してきたかを分析するものである。具体的な手法としては、3つの柱がある。

第1に、インタビューないしオーラルヒストリーであり、政治家(秘書を含む)、外務官僚、防衛官僚、経済官僚らを対象とする。とりわけ、比較的機密性が高く、したがって研究の遅れてきた防衛官僚に力点を置きたい。

第2に、外務省や防衛省に対する情報公開請求であり、冷戦後の主要案件について系統的に文書公開を行う。

第3に、外務省、防衛省について、『官報』などを参照しながら、課長クラス以上の主要人事履歴データベースを作成することである。

これらを通じて、小泉政権期までの時期において、特に防衛官僚が対外政策に果たした役割と官邸外交の相互関係を明らかにしたい。近年、重要視される安全保障政策の歴史的背景を実証することは、社会的ニーズに応えるものでもある。

## 4. 研究成果

### 4-1 学術書(すべて単著)

*Fighting Japan's Cold War: Prime Minister Yasuhiro Nakasone and His Times*, translated by Graham B. Leonard (London: Routledge, 2023)

*Japan and the Origins of the Asia-Pacific Order: Masayoshi Ohira's Diplomacy and Philosophy*, edited by Graham B. Leonard (Singapore: Springer, 2022)

*China-Japan Rapprochement and the United States: In the Wake of Nixon's Visit to Beijing*, translated by Graham B. Leonard (London: Routledge, 2022)

*Japan at War and Peace: Shidehara Kijūrō and the Making of Modern Diplomacy* (Canberra: Australian National University Press, 2021)

Eisaku Satō, *Japanese Prime Minister, 1964-72: Okinawa, Foreign Relations, Domestic Politics and the Nobel Prize*, translated by Graham B. Leonard (London: Routledge, 2021)

『外交を記録し、公開する なぜ公文書管理が重要なのか』(東京大学出版会、2020年)

*Understanding History in Asia: What Diplomatic Documents Reveal*, translated by Tara Cannon (Tokyo: Japan Publish Industry Foundation for Culture, 2019)

『増補版 大平正芳 理念と外交』(文春学藝ライブラリー、2019年)

『高坂正堯 戦後日本と現実主義』(中公新書、2018年)

#### 4-2 論文(すべて単著)

"The Tanaka Memorial and China-Japan Relations" (『総合政策研究』第31号、2023年3月) 47-53頁

"A Bibliography of Ryuji Hattori, Japan at War and Peace: Shidehara Kijūrō and the Making of Modern Diplomacy (Canberra: Australian National University Press, 2021)" (『総合政策研究』第30号、2022年3月) 79-120頁

「書評 種稻秀司著『幣原喜重郎』」(『日本歴史』第882号、2021年11月) 81-83頁

「ソフト・パワーとしての文書管理」(『アジア歴史資料センター20年の歩み』2021年10月1日) 128-129頁

"The Washington Conference and East Asia, 1921-1922" (『総合政策研究』第29号、2021年3月) 1-20頁

「追悼 中曽根康弘元首相」(『中央公論』2020年2月号) 130-135頁

"Statesman Yasuhiro Nakasone helped shape postwar Japan," *The Japan Times*, December 6, 2019, p. 4

「評伝・中曽根康弘、戦後日本外交の頂点を極めた」(『日経ビジネスオンライン』2019年12月2日号) 1-2頁

「30年ルールの起源と外交記録公開」(『外交史料館報』第32号、2019年3月) 39-75頁

「岡崎嘉平太と中国」(『中央大学論集』第40号、2019年2月) 7-15頁

#### 4-3 報告

「日中関係の原点 国交正常化とその後」2022年12月22日(日本国際フォーラム・上海外国語大学日本研究センター共催「日中対話：日中50年の関係から読み解く次の50年」)

"The Tanaka Memorial and China-Japan Relations," Lecture, Strategic Communications, European University Institute, May 20, 2022

#### 4-4 その他

「もう一つの『保守本流』」(『毎日新聞』2021年7月14日夕刊) 4面

「元住友銀行専務取締役 岡部陽二インタビュー 学生時代の高坂正堯」(『総合政策研究』第28号、2020年3月) 111-128頁

「元広島市立大学広島平和研究所所長 浅井基文インタビュー」(土田哲夫・子安加余子編『近現代の中国と世界』中央大学出版部、2020年2月) 315-445頁

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Ryuji Hattori	4. 巻 30
2. 論文標題 A Bibliography of Ryuji Hattori, Japan at War and Peace: Shidehara Kijuro and the Making of Modern Diplomacy (Canberra: Australian National University Press, 2021)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合政策研究	6. 最初と最後の頁 79-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 服部龍二	4. 巻 29
2. 論文標題 The Washington Conference and East Asia, 1921-192	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合政策研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2019年12月2日号
2. 論文標題 評伝・中曽根康弘、戦後日本外交の頂点を極めた	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日経ビジネスオンライン』	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Ryuji Hattori	4. 巻 December 6, 2019
2. 論文標題 Statesman Yasuhiro Nakasone helped shape postwar Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2020年2月号
2. 論文標題 追悼 中曽根康弘元首相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中央公論』	6. 最初と最後の頁 130-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2018年5月27日号
2. 論文標題 100歳を迎えた中曽根康弘・元首相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『WEBRONZA』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2018年6月24日
2. 論文標題 この3冊 シベリア出兵	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『毎日新聞』	6. 最初と最後の頁 9面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2018年11月
2. 論文標題 著者に聞く 『高坂正堯 戦後日本と現実主義』 / 服部龍二インタビュー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 web中公新書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 2018年12月9日
2. 論文標題 なぜ島田紳助がリスペクト? 国際政治学者・高坂正堯の意外な一面	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文春オンライン	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部龍二	4. 巻 第40号
2. 論文標題 岡崎嘉平太と中国	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中央大学論集』	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Ryuji Hattori	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 168
3. 書名 China-Japan Rapprochement and the United States: In the Wake of Nixon's Visit to Beijing	

1. 著者名 Ryuji Hattori	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Australian National University Press	5. 総ページ数 368
3. 書名 Japan at War and Peace: Shidehara Kijuro and the Making of Modern Diplomacy	

1. 著者名 Ryuji Hattori, translated by Graham B. Leonard	4. 発行年 2021年
2. 出版社 London: Routledge	5. 総ページ数 308
3. 書名 Eisaku Sato, Japanese Prime Minister, 1964-72: Okinawa, Foreign Relations, Domestic Politics and the Nobel Prize	

1. 著者名 服部龍二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 313
3. 書名 増補版 大平正芳 理念と外交	

1. 著者名 服部龍二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 外交を記録し、公開する なぜ公文書管理が重要なのか	

1. 著者名 服部龍二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 424
3. 書名 高坂正堯 戦後日本と現実主義	

1. 著者名 秋山昌廣 / 真田尚剛・服部龍二・小林 義之編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 331
3. 書名 元防衛事務次官秋山昌廣回顧録 冷戦後の安全保障と防衛交流	

1. 著者名 Ryuji Hattori, translated by Tara Cannon	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Japan Publish Industry Foundation for Culture	5. 総ページ数 272
3. 書名 Understanding History in Asia: What Diplomatic Documents Reveal	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="http://ryujihattori.a.la9.jp/">http://ryujihattori.a.la9.jp/</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------